

【特別寄稿】ある日の柊家

佐々宮ちるだ

その日、我が家の居間では俺の6人のお姉ちゃんたちとおとなりの犬神家のお姉ちゃん、合計8人が珍しく顔を揃えていた。

なにやら雛乃姉さんから招集が掛かったらしい。

「姉さん、今日はいったい何があるんですか？」

「うむ。実は客人が来るのだ。そろそろ到着すると思うが」

「——こ～んにちは～♪」

玄関から女の人の声がする。

応対に出たともねえが連れて来たのは、初めて見る3人の女の人だった。

「おお、よくきたな」

「お招きありがとうございます」

帆波ねえやくらいの歳恰好の癒し系美女がにっこり微笑みながら挨拶する。

「みなさんはじめまして。真下まりあで～す。聖母マリア様のまりあで～す」

口元のほくろがセクシーなまりあさんが、見かけに似合わない口調で自己紹介する。

「それで、この子は妹の『のん』ちゃん」

「その呼び方はやめろ——真下まのんだ。便宜上、次女ということになっている」

ちょっとクールな雰囲気、どこか姉様を思わせる俺と同じ歳くらいの子。

「そして、末っ子の『まる』ちゃん」

「あ、あの、三女の真下まひるです……よ、よろしく申し上げます……」

もうひとりは妙にオドオドしているおかつぱの丸眼鏡っ子だった。

「この三姉妹が、我らにぜひとも訊きたいことがあるという」

「そーなの。実はワタシたち、今度ある男の子の『おねえちゃん』になるの。でもみんなおねえちゃんになるのは初めてだし、いろいろと不安もあるのよね。だからそれで……」

「ああっ、回りくどい！ ——単刀直入に訊くぞ。『姉』とはいったい何だ？ 『弟』とどう接すればいい？」

まひるさんの唐突な質問に、お姉ちゃんたちは顔を見合わせる。

「——あら、簡単なことじゃない」

口火を切ったのは要芽お姉様だった。

「姉というものは、弟の上に絶対君臨する『支配者』よ」

「お姉様、さすがです！ そうよ、イカなんか下僕ですよ、ゲボク！」

高嶺姉貴も羨望のまなざしとともに賛同の拍手を送る。

「おお、そうか。やはり弟に舐められてはいけないのだな」

まのんさんが納得の表情で大きくなずく。

「あたしは要芽ちゃんとはちょっと違うな。弟はやっぱり、大きな愛で包み込むものよ」

「ま、それステキっ。大賛成しちゃう♪」

まりあさんがねえやに抱きついた。

「弟のために何でもしてあげるのが一番だよ～姉弟ならこれくらい当然だよ～」

「で、でも海の場合はちょっとやり過ぎのような……あう」

「陰からそっと見守るのも姉の務め……くすっ」

「お、お姉ちゃんになるって大変なんですね。はうう……」

次々に繰り出される「姉論」にまひるちゃんはすっかりビビってしまっている。

「案ずるな。みなそれぞれ意見はあろうがとどのつまり、肝要なのはこれよ——」

雛乃姉さんが広げた扇子に、大きく書かれていたのは「姉弟愛」という言葉だった。

「愛……！」「愛、なのか……？」「愛、なんですね……」

「うむ。時に厳しく、時に優しく、愛をもって接することこそ、姉の極意なるぞ」

「——おとつと、大切なことを忘れてるにゃあ」

それまで黙っていた瀬芦里ねえねえがすっと立ち上がる。

「やっぱ姉なら、弟にはない『一芸』を持つてることが重要なんじゃない？」

た、たしかにウチのお姉ちゃんたちはみんな個性的というか、他にはない一芸に秀でているヒトばかりだけど、それって姉の必須条件なのか？

「ん～、芸というか、3人ともちょっとヒトには出来ないことが出来ちゃうわよ？」

「お、おい、待てまりあ。おまえまさか——」

「あら、いいじゃない。減るもんじゃないし」

まりあさんたちにも何か特殊スキルがあるみたいだ。

「はいは～い、それじゃ今からワタシたちのとっておきのワザを見せちゃいま～す」

「くっ……もうどうにでもなれ」

3人は立ち上がると、それぞれ呪文のようなものを唱え始めた。

「ピルリル・マリリル・メリカルル——」

「シュトゥルム・ウンドゥル・ドラッケン——」

「カイグリ・カイグリ——」

次の瞬間、眼もくらむような閃光が居間を包み込んだ。

「なな、何よこれ～!？」

そして光が消えるとそこに、バニーガールのような恰好のまりあさん、フリフリでロリロリなコスチュームに魔女みたいな帽子を被ったまのんさん、そしてミニスカ巫女のまひるちゃんがいた。

「じゃじゃ～ん♪ 実はワタシたち『魔法少女』なので～す」

「……み、見るなっ。そんな物珍しそうな視線で見るなっ……！」

「はうう……は、はずかしいです……」

眼の前で起きた出来事にお姉ちゃんたちもさすがにぼか～んとしている——ともねえを除いて。

「あ、あう……ホ、ホンモノの魔法少女……な、仲間だ、私の仲間だよ、空也……！」

……というわけで。

佐々宮ちるだ、初のオリジナルライトノベルを上梓することとなりました。

タイトルは「まほねーず」（仮題） 一迅社文庫から2011年春、発売予定です。

まりあ、まのん、まひる——「姉しょ」のお姉ちゃんたちに負けない三人の

魔法少女なお姉ちゃんたちがかわいい弟のため大活躍します。 乞うご期待！